

FUTI小林久志記念奨学金

日本の大学の博士課程在籍者・在籍予定者の米国留学
日本の大学から米国のPhD課程に入学者・入学予定者
但し広義の理系で日本国籍の学生

(1)日本の大学の博士課程3年間の在籍者または進学予定者が、米国の大学に一時期留学し、日本で博士課程を修了する学生、または(2)米国のPhD課程5年間（日本の修士相当の2年間を含む）への留学者または留学予定者、が奨学金の対象です。

FUTIは東京大学出身者・関係者の寄付と労力で支えられているため、東京大学の過去現在の学生を対象にしていますが、小林久志記念奨学金については、遺志により**東京大学に限らず日本の大学の学生**からの応募を受け付けています。該当の方は応募書類のEssayに小林久志記念奨学金希望と明記してください。

米国のPhD課程は一般に、生活費まで含めた財政支援が提供されるので、奨学金は、留学当初の初期費用と、特殊事情での支援不足を補う金額に限られます。

奨学金支給期間は1年間で、2年目に延長する再応募が可能です。即ち**最長2年間**です。金額は応募書類で提出して頂く収支計画に基づき、しかし限られた予算内で可能な金額をご提案させていただきます。但し**年間5万ドル以内**です。

小林久志記念奨学金への応募は、

<http://www.todaitomonokai.org/>からFUTIの中長期奨学金一般の応募手続きに従ってください。小林久志記念奨学金に相応しい方をFUTIで採択します。但しFUTIの各奨学金の中では是非小林久志記念奨学金を受けたいとのご希望がある場合は、応募書類のEssayに記載してください。記載の有無は可否に関係しません。

小林久志氏(1938-2023)は、東京大学電気系修士修了後就職を経て、1967年に米Princeton大でPhDを取得、IBMで基礎研究に携わりIBM東京基礎研の初代所長を務めました。Princeton大で教職に就き、1986年から5年間は工学部長を務めました。さらに当NPO「東大友の会、現在名FUTI」の2007年立ち上げに貢献し、2011－2015年には理事長として奨学金事業を開始・拡充しました。